

WEEKLY REPORT

ところで、世界のローターと日本のローターにはギャップが生じている、ということをお聞きになっていませんか？日本のローターが重視する職業奉仕(実は、日本人ローターがこだわっているのは職業「倫理」のようです)は、世界中の何処へ行っても通じないというのです。職業奉仕とは職業上持ち得た専門知識や技能を生かして社会奉仕に貢献することだと、世界は考えているようです。職業奉仕を特別なローターを動かす土台としては考えていないのです。先の規定審議会でRACをRIの会員として認める件や、例会の欠席補填(メークアップ)を当年度以内とする緩和決定には驚きました。しかしこの狭い日本列島で2000年もの永い間、自然神信仰(神道)、仏教、儒教を自生的に「餅をこねるように」創り、武士道や商人道に形成し、実践してきた日本人の思想の風土を考えれば、職業奉仕の重視というスタンスは軽率なポピュリズムよりは遥かに重いものです。日本のローターがガラパゴスとか、周回遅れで走っているという評価はいただけるものではありません。来年に迫った日本のローター100周年では、ローターという米国建国期ピューリタンの思想潮流を、日本人の風土、文化になじむよう取り入れてきた社会運動として正しく評価されるべきものだと思います。如何でしょうか。

さて、これからのローター-の方向はどうなるのでしょうか？5月から日本の元号が「令和」と改元されました。明治以降の大正、昭和、平成の150年はおよそ30年ごとに登り坂と降り坂を交互に経験してきました。平成の30年間の日本は、バブルの崩壊以後世界同時不況、大震災や自然災害がつづいて、降り坂の30年でした。外に目を向ける産業分野もありましたが、大多数の内向きな日本人は「井の中の蛙」と化しました。政府は内需を高めるために躍起になって財政出動しますが、国の借金が膨らむだけでした。人件費の上昇以上には生産性が目立って改善するわけではなく、低成長(時にはマイナス成長)がつづいています。

令和の時代には、もっと大らかに、日本人が持つ相手に心を寄せる優しさが発揮される時代になって欲しいと思います。そして日本人がもっと国際社会に出て、世界に貢献でき期待したいと思います。そのためには、ローターと同じように、日本人は明確な国家戦略をもつことが必要です。先ごろ経済同友会が発表した『危機感なき茹でガエル日本——過去の延長線上に未来はない——』の、日本再生の処方箋をご紹介します。三次元の図表で表わせば、X軸＝経済の豊かさの実現、Y軸＝イノベーションによる未来の開拓、Z軸＝社会の持続可能性の確保、という社会の、近視眼ではない30年、50年後を見通した構想を基本として、そこに到る道筋を考えなければならない、ということです。令和の時代を、「敗北と挫折」の平成の30年の延長と思うのではなく、危機感を持って、日本人の繊細な感性を生かせる健康長寿、地球環境、持続可能性を構築する分野などで世界のトップを目指すべきです。

1月のサンディエゴのRI国際協議会で、GEとしてGETSに参加したとき、会場の入り口に掲げられていた標語は Join Leaders ,Exchange Ideas ,Take Action ! ... 「リーダーを集め、意見を交換し、行動に移せ！」でした。かつてのそれは、Enter to Learn ,Go Forth to Serve! ... 「入って学び、出でて奉仕せよ」でした。標語が変わったことの意味する所は、RIが戦略計画を構築するための姿勢を示しているものと理解します。リーダーを集めて、意見を交換して、そして行動する、ということです。これがRIのこれからの行き方です。以上で「RIの現在とこれから」というお話を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

クラブ
協議会
風景



社会奉仕基金 円 《会報編集委員》野澤新之助・鈴木悦朗・小林辰幸・関征啓

Rotary  2019-2020年度

国際ロータリー 第2790地区 第13グループ 松戸北ロータリークラブ会報



「四つのテスト」 言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第2265回 例会 2019年9月4日(水)

松戸RC・松戸北RC合同例会

- | | |
|--------------------------|--|
| ■ 国際ロータリー会長 M・ダニエル・マローニー | ■ 例会日 - 毎週水曜日 12:30より (第1例会 18:30) |
| ■ 第2790地区ガバナー 諸岡 靖彦 | ■ 例会場 - 流山市前ヶ崎717「柏日本閣」 |
| ■ 第13Gアシスタントガバナー 森谷 博 | ■ 事務所 - 松戸市八ヶ崎1-11-13 カライズハイム101 |
| ■ 松戸北ロータリークラブ会長 大川 高明 | ■ TEL/FAX - 047-711-5950 / 047-711-5910 |
| ■ 松戸北ロータリークラブ幹事 柳 孝実 | ■ Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp |

WEEKLY REPORT

<2265回 合同例会プログラム>

12:30 点鐘 国家及びロータリーソング斉唱 【♪君が代 奉仕の理想】	松戸RC 中澤正彦会長
12:33 お客様紹介	松戸北RC親睦委員会
12:35 松戸RC会長挨拶 松戸北RC会長挨拶 第13グループガバナー補佐挨拶	中澤正彦会長 大川高明会長 森谷博 ガバナー補佐
12:50 ガバナー卓話 国際ロータリー第2790地区 2019-2020年度ガバナー	諸岡靖彦 ガバナー
13:15 御礼	
13:17 ニコニコボックス発表	
13:20 出席率発表	
13:23 諸事お知らせ	
13:25 点鐘	大川高明 会長
13:25 記念撮影	
13:40~クラブ協議会	

<クラブ会長挨拶:大川高明会長>

2019-20年度第47代会長を拝命致しました松戸北ロータリークラブ大川高明です。

諸岡ガバナー、堀口地区幹事、森谷アシスタントガバナー本日はありがとうございます。また、土屋パストガバナーには同席頂きありがとうございます。

本年度国際ロータリー会長マーク・ダニエル・マローニー氏の本年度のテーマは「ROTARY CONNECTS THE WORLD ロータリーは世界をつなぐ」です。

当クラブでもテーマの下、新たな奉仕活動を決め、会員全員が行動を起こすための「つながり」を築いていこうと思います。

本年度第2790地区のガバナー諸岡靖彦氏の地区スローガンは「ロータリーから千葉を元気に」です。クラブを元気にし、そして松戸、千葉を元気でできるようなクラブを運営ができればと考えております。

私も6年前35年のサラリーマン人生を終え地元では限られた友人しかおりましたが、ロータリーに入会し多くの人と出会うことができました。またロータリーを介して今までの人生では出会うことがなかった人たちとも出会うことができました。そしてそのつながりが私の生活を大きく変えてくれたように感じております。そしてクラブでの親睦及び奉仕活動をクラブ会員が一体となって行うことにより多くの喜びを知りました。今後も松戸北ロータリークラブの皆さんと多くの喜びを共にしたいと考えております。また、他のクラブの皆さんともつながりができ始めており、このつながりを深くできればとも考えております。



■米山梅吉 (UMEKICHI YONEYAMA) ■

1920年世界855番目のRC(東京RC)を創立し、日本に初めてロータリーを導入した。東京RCの初代会長に就任し、日本のロータリーの発展の基礎を築いてくれた偉大な人である。

WEEKLY REPORT

私はマローニー会長のテーマを受けて、「ロータリーから千葉を元気に」のスローガンを掲げました。千葉を元気にするためには地区内クラブが元気にしなければなりません。私の使命はクラブを鼓舞し、クラブを元気にすることです。地区組織の総力を挙げて、クラブを元気にします。

さて、ご参集のロータリアンの皆様に投げかけてみたい話題があります。皆様ご自身にとってロータリーの魅力とは何でしょう、ロータリーを続けている理由は何だと思えるのでしょうか？来年10月に日本にロータリーが生まれて100周年を迎えます。「日本のロータリー100周年実行委員会」が一昨年全国のRCに対して意識調査を行いました。この中に日本人ロータリアンの意識を探ることができます。(この詳細は「ロータリーの友」2017年11月号に掲載)

上位6番目までの理由を拾ってみますと ①異業種交流ができる ②生涯の友人・仲間ができる ③自己研さんと学習・成長の機会 ④例会が楽しい ⑤奉仕活動ができる ⑥心からの親睦が得られる… となっています。奉仕活動への期待よりも、他人との関わりを大切にしている、という結果でした。皆様の場合はいかがでしょうか？

私の考えですが、「出会いの妙」、それがロータリーの魅力の第一です。2010-11年度にクラブ会長を務め、その後地区へ出るようになってから、殊に多様な地区ロータリアンとの交流が楽しみになりました。GND、GN、GEと年々立場がガバナーに近づくにつれて、シニアリーダーといわれる方々やPDGと接する機会が増えて、様々な人間像、彼らの奉仕活動の体験談、立ち居振舞い、リーダーシップのあり方を垣間見てきました。ロータリアンは対等です。ロータリーの会合では、公式、非公式に関わらず対面すればどんな著名な方とでも対等なお付き合い、お話を交わすことができます。「ロータリーにNo! は無い」とよく言いますが、回ってきた役目はお受けするのが良いと思います。ロータリーを学び、自分の世界を広げるチャンスだと思ふべきです。苦手な分野であっても、ポジティブに受け取るべきです。不安な気持ちが準備を進め、問題意識を高めます。例会や奉仕活動では、意識して年代の違う会員、職業分類の全く違う会員との交流が視野を広げ、感性を刺激します。RIの青少年プログラムは年齢層によって設定が変わりますが、IAC、青少年交換、RYLA、RACに参加しますと、ロータリーファミリーの幅の広さと若い力に教えられます。ものの見方、考え方そして何よりもロータリー観が養われます。このほかにもロータリーの世界的ネットワークの凄さ、R財団や米山奨学会の資金力は奉仕活動にとって、大きな原動力であり、その事業に惚れこめば健全で素直な寄付協力が近づけると思います。

ロータリーの全体像を絵にして表現すると、どんなことになるでしょうか！『ロータリーの樹』をご覧ください。青木貞雄ガバナー年度の2016年の地区大会にRI会長代理で当地区に派遣された渡辺好政PDGがRI理事をお務めの2006-07年度の頃に持論を展開したというのがこの図表です。樹を育て、森を創る発想は日本人の自然観によく嵌ります。森を征服して街を切り拓くという西欧人の感性との差が見て取れます。土壌(中核的価値観)があって、根(Rの理念)があるから幹(Rの目的)は育ち、幹を太らせれば枝葉(五大奉仕活動や6つの重点分野)が広がり、陽光を浴びて果実(R財団)が実り、全体景観としてのRの公共イメージが向上する…というものです。

この『Rの樹』から様々なインスピレーションが生まれます。ロータリアンは「個」からスタートして自学(楽)自習して、個のリーダーシップを養います。樹を大きく育ててゆくには高潔性という土壌が特に大切です。ロータリーがロータリーであるためには、職業倫理に従って得た経済力が個人の奉仕活動の原動力になるからです。「クラブ」が地域社会に働きかける要件として、クラブが元気でなければ地域に対して健全な提案やリーダーシップが発揮できません。会員基盤を多様化させて、クラブを持続的に盛り上げてゆくことが大切です。クラブの活動計画は奉仕活動も親睦も絆を創るための相互の存在と役割を認め合って、タテマの活動だけではなく、上位の目的を共有し合うヨコワリのクロス・プロモーションを意識して動かなければなりません。この樹を持続的に、いかに強く育てるかは、戦略計画の課題です。樹を育て、森を如何に創ってゆくかはクラブ会員全体の総意に関わります。全会員の討議で森を創るビジョンを構想してください。ビジョンができたなら毎月の、毎年の作業計画を創って、実行してください。半月後、1年後の実行チェックは欠かすことのできない、次のステップに向かう大事な振り返りです。こうして樹が育てばロータリーの活動はますます意義深くなり、楽しくなることでしょう。

WEEKLY REPORT

<国際ロータリー第2790地区 第13グループ 森谷博ガバナー補佐挨拶>

松戸ロータリークラブの皆様、松戸北ロータリークラブの皆様 こんにちは。

今日は、諸岡ガバナーの公式訪問ということで、皆様もいろいろ準備をなされた事と思います。

さて、今年度のRI会長のテーマは、「ロータリーは世界をつなぐ」であります。それを受けまして、諸岡ガバナーは地区スローガンとしまして「ロータリーから千葉を元気に」と宣言しました。そして各クラブには「クラブの活性化」としてクラブがそれぞれに独自のクラブ戦略を持ち、地域社会のニーズに応える奉仕活動に取り組んでほしいと期待されました。どうぞ皆様、今日は、諸岡ガバナーのロータリーへの思いや方針をお聞きになりまして、ロータリー活動を積極的に行っていただきたいと思っております。今日はよろしくお祈り致します。



<ガバナー卓話 国際ロータリー第2790地区2019-2020年度ガバナー>

：諸岡靖彦ガバナー>

本年度当地区ガバナーを務めます 諸岡 靖彦(成田ロータリークラブ)です。本日は国際ロータリーの現況と、来年10月に100周年を迎えます日本のロータリーの実情についてご報告する同時に、私のロータリーに対する考え方を中心にお話しさせていただきます。

ロータリークラブ(RC)は、その会員であるロータリアンによって構成され、一方、国際ロータリー(RI)は、RCによって構成されます。ロータリーの創設者P.Harris(1868~1947)は資本主義社会の勃興期の、商業道徳が忘れられてしまった1905年に、米国シカゴの街に信頼と友情の仲間を増やしたいという趣旨でRCを創りました。親睦と相互扶助が初期の目的でしたが、奉仕という目的を加えることによって全米に拡がり、国境を超え、今では200以上の国と地域に、クラブ数3万6千、会員120万人を数える世界有数の奉仕目的団体となりました。こうした世界中のクラブの連合体をRIと称しています。ロータリーは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりで、世界に目を開いて幅広い奉仕活動を国際社会に、地域社会に展開しています。

このようにロータリーは奉仕という基本目標の下に、世界中に会員基盤を有し、クラブを、地域を、世界をリードしています。ロータリーの活動を確固たるものにしてゆくためには、一人一人のロータリアンがロータリーを熟知して、私たちが所属するクラブをより効果的なクラブに成長させることが大切です。クラブを構成する一人一人のロータリアンがリーダーシップを身につけ、会員組織を強くして、社会が必要とする奉仕活動を継続させてゆくことがロータリー活動の課題です。

本年度RIのMark D. Maloney会長は、ここ20年間の会員総数が120万人のレベルで推移していることを停滞と断じました。情報化と交通手段の格段の進展がグローバル化を進め、世界の動きがより早く、狭くなっています。他方で地域紛争が長く尾を引き、経済や通商分野には対立と分断が進み、世界中がバランス感覚を失っています。「あと少し」に迫ったポリオ根絶にも、時間とカネがまだ掛かりそうです。マローニー会長は、かつてないほど分断化された世界に繋がりを取り戻すことができるのはロータリーであると断言します。ロータリーはより健康的で、平和で、持続可能な世界に向けた国連とのコミットメントを有し、他の組織には見られない平和と相互理解という精神の下に世界中の人々が繋がるのが出来、目標に向かって意義ある行動を起こすことの出来るインフラを有しています。今こそロータリーの出番です。ロータリーの組織としての勢いを回復させ、地域社会や家庭、職域に新しいつながりを創り、世界をつなぐことがロータリーの使命です。こうした背景から、マローニー会長は『ロータリーは世界をつなぐ』ROTARY CONNECTS THE WORLD のテーマを打ち出されました。



WEEKLY REPORT

松戸北ロータリークラブの大きな変化についてお話をさせていただきます。大きな変化は2つ在りました。1つは長年続いてきた松戸市内のなかよし学級の生徒さん向けの芋掘りが中止になりました。30数年続いてきましたが諸事情により中止になりました。また、東日本大震災向けへの援助と訪問も中止となっております。これにより当クラブでの大きな奉仕活動がない状態となっております。2つ目は7名の会員の退会があったことです。理由はいくつかございますがめぐりあわせで今期は33名からのスタートとなっております。会員の減少はクラブにとっては大きな問題であり危機的状況と考えております。

1つ目の奉仕活動については前期より例会の中で話し合い、多くの案が出てきております。再度その内容を会員全員が共有し、いくつかに絞っていき、最後は「四つのテスト」を踏まえ決定したいと考えております。芋掘りのように会員全員が参加できて、長い期間継続できるような奉仕活動を見つけていきたいと思っております。

2つ目は会員減少の件ですが目標としては直近の会員数40名が目標です。会員を増やすことも大事ですが仲間として、ロータリアンとしてふさわしい人材であることも大事なことであり、会員みんながそのことの意識をもって会員増強につなげていきたいと思っております。

このような状況の中、本年度私が与えられた責務は昭和・平成と46人の会長がつないでこられた当クラブの伝統を令和と御代変わりしても発展させることであり、また、前高橋一彦会長が提唱されていた「温故知新」の精神を継承し、諸先輩方々が築いてこられた松戸北ロータリークラブの伝統を踏まえたうえで前に進んでいくことと自覚しております。

1年間精一杯責務を全うし、次世代へ引き継いでいく所存です。以上で会長挨拶とさせていただきます。

<松戸ロータリークラブ会長挨拶:中澤正彦会長>

皆様、こんにちは。

本年度松戸ロータリークラブ第63代会長を仰せつかっております中澤雅彦です。本日の松戸北ロータリークラブさんとの合同によるガバナー公式訪問例会、このように大勢の方々にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

先ず初めに、国際ロータリー第2790地区2019-20年度ガバナー諸岡靖彦ガバナー、ようこそお越しいただきました。厚く御礼申し上げます。後程、卓話として貴重なご講演をいただきます。例会後のクラブ協議会でも折角の機会ですので活発な意見交換ができればと存じます。どうぞよろしくお祈り致します。

そして、ガバナー補佐森谷博様、地区幹事長堀口路加様、ようこそ本例会にお越し下さいました。重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、本年度の諸岡ガバナーは「ロータリーから千葉を元気に」を地区スローガンにロータリー活動を展開されております。松戸ロータリークラブもそれに見習いまして、「団結(し)・飛躍(して)・元気な松戸クラブ(にしよう!)」をスローガンに掲げ、一年間活動させていただいております。一つ一つのクラブが元気になり、千葉が元気になり、日本、世界へとロータリーが大きく繋がっていくことを期待しております。

本日は諸岡ガバナーから貴重なご講演をいただき、かつ、クラブ協議会における活発な意見交換等、長時間になりますが有意義な時間になりますことを御期待申し上げ簡単ですが会長挨拶といたします。皆様、宜しくお祈り致します。

【ご報告】

本日のガバナー公式訪問は、100%出席例会となりました。出席委員会小柳委員長のご尽力、ありがとうございます。そして、会員の皆様のご協力に厚く感謝申し上げます。

